

全日中事務局だより

■文部科学省 2019年度予算概算 要求主要事項（中学校関係）

平成30年8月31日、文部科学省は、2019年度予算概算要求をとりまとめ、公表しました。その中の文教関係予算では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていくという理念の下に、中学校教育に関して主に《教育政策推進のための基盤の整備》《夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成》《生涯学び、活躍できる環境の整備》《誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築》《Society 5.0に向けた人材育成》

の5つの柱を掲げ、文教関係予算全体で前年度より3700億円増の4兆4103億円の要望額を計上しました。

《教育政策推進のための基盤の整備》では、新学習指導要領の円滑な実施と学校における働き方改革のため、義務教育費国庫負担金に「1兆5200億円（教職員定数の改善255人、教員給与の見直し等）」、「チームとしての学校」を実現するため、専門スタッフや外部人材の拡充、学校現場における業務改善加速事業として「520億円、児童生徒等の安全と健康を守るため、学校施設の耐震化、ブロック塀等の安全対策、空調整備等の防災機能強化や、教育研究環境の改善等を推進するため、2420億円を計上しました。

《夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成》では、地域と学校の連携・協働を推進し地域力を強化するとともに、地域全体で学校安全体制を構築するために85億円、英

語教育やプログラミング教育、道徳教育など、新しい時代に求められる資質・能力を育成するための支援の充実を550億円を計上しました。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置拡充やSNS等を活用した相談体制構築など、いじめ・不登校対応等の推進のために227億円を計上しました。

《生涯学び、活躍できる環境の整備》では、就学前から卒業後まで、特別支援教育の生涯学習化を推進するために、切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実に28億円を計上しました。

《誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築》では、外国人受入れ拡大に対応した外国人児童生徒等への教育の充実として7億円を計上しました。

《Society 5.0に向けた人材育成》では、「公正に個別最適化された学び」等

の実現に向け、学校現場と企業等との協働により、学校教育において効果的に活用できる未来型教育テクノロジの開発・実証に7億円を計上しました。

しかし、引き続き厳しい財政状況の中で実現に向けては予断を許さない状況にあります。今回の文部科学省の概算要求の実現を、教育関係団体と連携協力して要求していく必要があります。

全日中では、平成30年度総会決議に基づき、中学校教育に課せられた使命を果たすため、「緊急を要する事項」「早期実現を要する事項」の2本の柱からなる『文教関係立法・予算措置等要望』を作成し、予算対策部と給与対策部が中心となり、7月下旬に文部科学省、総務省、財務省、衆・参両院の議員、都道府県の各知事に向けて『文教関係立法・予算措置等要望』の趣旨説明と陳情を行いました。今後も、来

年度予算に全日中の要望が反映されるよう、関係諸機関に対して積極的に働きかけてまいります。(特報1号より)

■2019年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査に向けてのご案内

来年4月18日(木)に実施予定の「2019年度全国学力・学習状況調査」における中学校英語の「話すこと」調査では、各学校のコンピュータ室等のPC端末、配布されるUSBヘッドセット及びUSBメモリを活用し、音声録音方式により、一学級を一つの単位として同時に調査を行うようです。現時点で、来年度の中学校英語「話すこと」調査の具体的な手順については以下のよう進めていく計画で、各学校におかれましては、各教育委員会と協力し、ご準備方よろしくお願いいたします。今後の段取りとしては、本年11月中旬に、文部科学省より「学校基本情報」の確認(AB調査)の中で、各学校のICT

環境(具体的にどのようなPCを使っているか等)把握する予定です。また、来年一月にWebシステムを通じて、「事前検証ツール」を配布する計画です。そう、この「事前検証ツール」は、来年度の中学校英語「話すこと」調査と同じプログラムでの検証となっていて、確実に実施できるよう準備が必要となります。

ここで心配になることは、インターネットへの接続環境が、各教育委員会で大きく違うことです。IDやパスワードを入力すると、接続できない状況にある場合には、セキュリティー解除の方法など教育委員会と情報交換をし、準備して必要があります。また、コンピュータ室等のPC端末に配布されるUSBヘッドセットが使える環境になっているか、更にUSBメモリを活用し、音声録音ができるかなど早急に点検しておく必要があります。

(事務局長 松澤 宏尚)